防災歳時記（42）

―酒田大火、復興の歌高らかに―

NHK 放送用語委員会専門委員
元　気象庁天気相談所長
宮　澤　清　治

フェーン現象ではありません

1976(昭和 51)年 10 月 29 日、山形県酒田市に大火があった。この日、発達した低気圧が日本海を進み、北海道近海に達した夕方ごろから酒田地方は西寄りの風が強くなった。午後 5 時 40 分ごろ、市内中町 2 丁目付近から出火し、市街地を西から東へ燃え広がった。

翌 30 日午前 5 時ごろに鎮火した。被害は、焼損棟数 1,774、焼損面積 152,105 ㎡、死者 1 人、負傷者 1,003 人、り災人員 3,300 人、出火原因不明などとある(平成 15 年版消防白書)。

酒田測候所長金沢昌智さん(当時)がざっと次のように書いている。

「測候所の測風塔に上がってみると、夕闇が濃くなった北西～西の空に、真っ赤な炎が強風にあおられて風下に一直線に延び、目抜き通りのデパートが炎上中であった。寒さと西寄りの強風雨が激しく、とても長く見ていられない状態だった。

29 日午後 10 時ごろから、北西風は一段と強まり瞬間風速 26.7m/s、火の粉というよりもオイルボールに火をつけたような火の玉が、各所で飛び散り方々で燃え上がった。

火災現場へ駆けつけ、帰ってきたら自分の家が燃え尽きていたという話も聞いた。

ひと晩中、雨、あられ、ひょうが降ったり止んだりの日本海側特有の晩秋の空模様で、氷雨は延焼防止には役立たなかった。」

日本海側では、しばしば日本海の台風や発達した低気圧に向かって吹く南寄りの風がフェーン現象を起こす。このときの乾いた熱風が大火をもたらすというのが常識である。昭和 27 年 4 月の鳥取市、昭和 30 年 10 月の新潟市、昭和 31 年 9 月の富山県魚津市の大火はいずれもフェーン現象下だった。

ところが、今回の酒田大火は、発達した低気圧が通過したあとで吹く、いわゆる吹き返しの強い北西風が火災を拡大させた。

当夜、東京の気象庁には取材の電話が殺到し、予報官はフェーン現象による大火でないことを説明するのに一苦労した。

酒田大火は悲運だった

酒田市は全国的にみても風の強い町である。強風日数(日最大風速 10m/s 以上の日)が年間 89 日もあり、平均して 4 日に 1 度は強風が吹く。作家のねじめ正一氏は「風の

図１　復興商店街中通り（酒田市）

す棲む町」と題して、今回の酒田大火を素材にした小説を書かれた。

風にさらされる町であるので、一度出火すると大火になることがしばしばである。

明暦2(1656)年から安政3(1856)年までに、焼失家屋百戸以上が5年に1回､5百戸以上が12年に1回、1千戸以上が40年に1回、2千戸以上が67年に1回の割合で、大火災が発生している(酒田市立資料館)。

酒田大火の歴史で最初に出てくるのが「明暦の大火」である。明暦 2(1656)年 5月 2 日夜、清治郎という人の家から出火したので「清治郎火事」と呼ぶ。折からの南東風にあおられ、全町の過半を焼き尽くした。り災戸数は704。季節と風向の記述からフェーン現象下の大火であろう。

さらに宝永4(1707)年12月8日、猟師町から出火し北西風にあおられ、本町・肴町・片町を焼失、り災戸数は718。これは低気圧通過後の北西風による大火と思われる。明治以降は､庄内地震(明治27年10月22日、M=7.0､酒田で全焼1,747戸､倒壊家屋1,558戸、山形県の死者726人)から昭和51年の大火まで、大火らしい大火はなかった。町の人々の火災に対する用心は他地方で見られないほど強かった。今回の大火は悲運というほかに言いようがない。その酒田大火も来年で30年の節目を迎える。

「防災の塔」から「防災の歌」が流れる

大火2年目に当たる昭和53年10月29日、防災の歌「明日に生きる酒田」の発表会が酒田市民会館で開催された。市民の多数の応募作品の中から〈詩〉と〈メロディー〉が選ばれた。長く愛唱することによって、再びあのような災害を起こすことのないようにと青年会議所が市民に呼びかけた。

音楽家神津善行さんの指揮で、防災の歌が大合唱され、会場を埋めた市民に深い感銘を与えた。

図２　防災の塔「はばたき」
（酒田青年会議所建立）

長い梅雨も明けた翌昭和54年7月末、黒い御影石で包まれた高さ7.8m、その上に三角形の翼がはばたく「防災の塔」が大通り緑地に姿を見せた。塔の胴体は、あの恐ろしい火柱を象徴し、塔を取り囲む4か所の噴水は必死の消火活動を連想させる。頂上のステンレスの三角翼は、火と水との戦いの中から生まれた新しい酒田の飛躍と希望を表す。真夏の太陽が西に傾き、紅の夕暮れが訪れた午後5時40分。2年半前の出火時間に合わせて、防災の塔「はばたき」から防災の歌が高らかに流れた。

♪冬へ急ぐ落葉と共に消え去り炎と燃
　えた美しい街酒田よ風吹く街